

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム
令和4年度四国ブロック総会議事要旨

1. 日時 令和5年3月30日(木) 16時10分～17時10分

2. 場所 香川大学イノベーションデザイン研究所
遠隔 (Zoom ミーティング)

3. 出席者

徳島大学：[教員] 大藪、瓜生、寺田（遠隔参加）[事務職員] 齋藤

鳴門教育大学：[教員] 宮口、阪東（遠隔参加）[事務職員] 三室（遠隔参加）

愛媛大学：[教員] 平野、松浦（遠隔参加）、尾國（遠隔参加）、高橋（遠隔参加）、
原本（遠隔参加）、本田（遠隔参加）[事務職員] 和氣家（遠隔参加）

高知大学：[教員] 佐々、三好（遠隔参加）、野村（遠隔参加）[事務職員] 西村（遠隔参
加）、斎藤（遠隔参加）、阿賀（遠隔参加）

香川大学：[教員] 今井田、高橋、林、宮崎、西本、藤澤 [事務職員] 藤沢、角田、澤井、
松本、樽見、清川、萬木

高知県立大学：[事務職員] 大野（遠隔参加）

四国大学：[教員] 松重、長沼、池田、細川

徳島文理大学：[教員] 山本 [事務職員] 佐々木、細川、安藝

高松大学：[教員] 佃

阿南工業高等専門学校：[教員] 松本（遠隔参加）

香川高等専門学校：[教員] 小島（遠隔参加）

新居浜工業高等専門学校：[教員] 占部（遠隔参加）

弓削商船高等専門学校：[教員] 佐久間（遠隔参加）、政家（遠隔参加）

高知工業高等専門学校：[教員] 芝、横井（遠隔参加）

陪席者

文部科学省：高等教育局専門教育課 木谷課長補佐（遠隔参加）

経済産業省四国経済産業局：地域経済部 製造産業・情報政策課 松坂課長、橋本係長

開会に先立ち、高橋議長（香川大学）より挨拶があった。

議事に先立ち、令和4年度新規入会校（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、高松大学）
の自己紹介が入会順にあった。また、司会進行は、高橋議長（香川大学）の指名により林教授（香
川大学）が行うこととなった。

4. 議事

1. 審議事項

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム四国ブロックの運営体制
及び運営に関する申し合わせについて

高橋議長（香川大学）から、資料１－１と資料１－２に基づき、四国ブロック運営体制及び運営に関する申し合せについて提案があり、承認された。

2.報告事項

（１）四国ブロックの令和４年度の活動報告について

宮崎教授（香川大学）から資料２に基づき四国ブロックの令和４年度の活動について報告があり、今後は四国経済産業局及び企業との連携を進めていくとの発言があった。

（２）教員ニーズ調査の結果報告について

藤澤講師（香川大学）から、令和４年１２月２６日開催のデジタル人材育成協議会（文部科学省）の資料を分析した資料と資料３に基づき教員ニーズ調査の結果について報告があった。特に実務家教員の活用について焦点をあて、高等教育機関からの期待や懸念の声が紹介された。

（３）幹事校の活動状況（ヒアリング実施状況）について

四国ブロック内の各県の高等教育機関の状況について、徳島県内については、大藪准教授（徳島大学）、愛媛県内については、平野教授（愛媛大学）、高知県内については、佐々教授（高知大学）、香川県内については、高橋議長（香川大学）から資料に基づき報告があった。

佐々木部長（徳島文理大学）から、同大（徳島キャンパス）については、人間科学生活部が令和５年度からカリキュラムを実施し令和６年度に応用基礎レベルの申請を目指すとの発言があった。

大藪准教授（徳島大学）から、令和５年４月に新設される「神山まると高専」についてもコンソーシアム入会等についてアプローチ対象かとの質問があり、徳島大学から同高専に派遣されている教員を通じてアプローチしていく事になった。

（４）令和４年度四国ブロック活動報告について

高橋議長（香川大学）から、資料４に基づき令和５年度の四国ブロックの活動計画について、総会は３月に香川大学で開催したいとの報告があった。

（５）四国経済産業局との協力体制について

高橋議長（香川大学）から、資料５に基づき大学の実務家教員のニーズを発掘し、派遣できるような仕組みや、大学で開発したプログラムを企業へ提供できるような仕組み作りを四国経済産業局と協力して進めていきたいとの報告があった。また、松坂課長（四国経済産業局）から、大学のニーズと企業のニーズの協力関係を築いていけるように進めたいとの発言があった。

その他

（１）鈴木教授（大阪大学）から、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム第１期からの取り組みや、同日のシンポジウム及び総会の感想が述べられ、今後は数理事業への取り組みに留まらず、四国地域が抱える問題を解決できるような集まりにしてほしいとの発言があった。

- (2) 松重学長（四国大学）から、文系に近い大学なので、数理の事業を展開するのは、人員確保も含め難しい。今後は ChatGPT が進むと、プログラミング教育が可能となり教育の内容が大きく変化するので最先端の内容にしていく必要がある。学生が、最先端の教育を習得し地域の問題解決に取り組めることが重要である、との発言があった。また、株式会社 AVAD について紹介され、身近な地域の要望がどのように数理・データサイエンス・AI 教育と結びつくのか学生に提示し、学ぶモチベーションとなるように四国ブロックとの共同作業を進めたいとの発言があった。
- (3) 木谷課長補佐（文部科学省）から、人事異動に伴う挨拶があり、経済産業局との連携について北海道ブロックの事例を参考に来年度取り組んでほしいとの、発言があった。
- (4) 長沼教授（四国大学）から、資料 1－1 についてコンソーシアムに四国大学短期大学部が未入会校になっているが、申請書には大学と短期大学部を記載しており、大学と短期大学部は同じ松重学長なので四国ブロックに追記してほしいとの発言があった。

5. 閉会

今井田理事（香川大学）から、閉会の挨拶があり、四国大学短期大学部の未入会についての問題等は重要なので、今後もこのようなことは発言してほしいとの発言があった。

以上